

項目		説明
試料・情報の利 用目的 及び 利用方法	研究課題名	Repeated transarterial chemoembolization (TACE) with epirubicin-loaded superabsorbent polymer microspheres versus conventional TACE for hepatocellular carcinoma
	研究目的	根治的切除不能な肝細胞癌に対する標準治療は肝動脈化学塞栓療法 (TACE)が推奨されている。従来はリピオドールに抗がん剤を含浸し、ジェルパートで塞栓を行う TACE(C-TACE)が行われていたが、近年塞栓材の新規開発により抗がん剤が含浸可能な永久塞栓材を使用した TACE(SAP-TACE)の有効性が報告されている。均一な径により末梢の腫瘍血管まで到達すること、門脈から流出することなく永久に腫瘍内に留まること、抗がん剤の徐放効果を有することが主な特徴である。治療効果の向上、有害事象の軽減が期待されているが、従来から実施されてきた C-TACE との治療成績の比較は明らかになっておらず今回本研究を立案した。
	研究対象者	2011 年 1 月から 2016 年 8 月に当センター消化器内科にて肝細胞癌に対する肝動脈化学塞栓療法の治療を受けた患者
	研究期間	西暦 2020 年 6 月 29 日 ~ 西暦 2024 年 3 月 31 日
利用する試料・情報の項目 (チェック[X]が入った項目を利用します)		<input type="checkbox"/> 血液 <input type="checkbox"/> だ液 <input checked="" type="checkbox"/> 臨床検査データ <input type="checkbox"/> 病理組織 <input type="checkbox"/> 排泄物(尿・便) <input type="checkbox"/> その他(記載して下さい) <input type="checkbox"/> 毛髪 <input checked="" type="checkbox"/> 診療記録
試料・情報の管理について の責任者	当センター 研究責任者	福島泰斗
試料・ 情報を 利用す る者の 範囲	当センターでの実施診療科/部局等	消化器内科
	共同研究の場合、共同研究機関および各施設での研究責任者	なし